

伝統芸能

蹴鞠

団体名 蹴鞠保存会
実施日 1月4日 ほか
場 所 賀茂御祖神社(下鴨神社)(京都市左京区) ほか

中国から伝来し、特に平安時代中期以降、貴族の間で独自に発達したものとされる。当初は、宮廷を中心とした貴族達の遊戯であったものが、中世以降次第に武士や庶民の間にまで普及し現在のかたちになったとされる。



念仏狂言

京都の念仏狂言は、大念仏あるいは大念仏狂言といわれ、仏教的色彩の濃厚な宗教劇として始まり、次第に能狂言などを取り入れ芸能化してきたもので、壬生寺の壬生狂言、嵯峨清凉寺(通称 嵯峨釈迦堂)の嵯峨大念仏狂言、引接寺(通称 千本えんま堂)の千本えんま堂狂言、神泉苑の神泉苑狂言が伝承されている。

壬生狂言

団体名 壬生大念仏講
実施日 4月29～5月5日、10月7～9日
2月2・3日ほか
場 所 壬生寺狂言堂(京都市中京区)



神泉苑狂言

団体名 神泉苑大念仏狂言講社
実施日 11月4～5日
場 所 神泉苑狂言堂(京都市中京区)



千本えんま堂狂言

団体名 千本えんま堂大念仏狂言保存会
実施日 5月1～4日、2月3日
場 所 千本えんま堂引接寺(京都市上京区)



嵯峨大念仏狂言

団体名 嵯峨大念仏狂言保存会
実施日 3月15日、4月2・8・9日、10月22日
場 所 清凉寺狂言堂(京都市右京区)



ろくさいねんぶつ
六齋念仏

六齋念仏は、平安時代空也上人が、民衆に信仰を広めるために、鉦や太鼓をたたいて踊躍念仏を始めたのが起こりといわれ、後に仏教でいう六齋日(ふつう月の内、8日、14日、15日、23日、29日、晦日の6日間)に行われたことから、六齋念仏とよばれるようになったと伝えられる。江戸時代中期から次第に風流化し、特に歌舞伎、地芝居、大念仏狂言などを取り入れた芸能性豊かなものに発展し、現在では六齋日とはかかわりなく、盆の行事を中心に行われている。六齋念仏には、古風で素朴な念仏六齋と、芸能化し娯楽性をもった芸能六齋の二つの系統がある。ユネスコ無形文化遺産登録

くぜろくさいねんぶつ
久世六齋念仏

団体名 久世六齋保存会
実施日 8月31日ほか(令和6年度は雨天により中止)
場所 蔵王堂光福寺(京都市南区)



ちゅうどうじろくさいねんぶつ
中堂寺六齋念仏

団体名 京都中堂寺六齋会
実施日 8月16日ほか
場所 壬生寺(京都市中京区)



うめづろくさいねんぶつ
梅津六齋念仏

団体名 梅津六齋保存会
実施日 8月25日ほか
場所 梅宮大社(京都市右京区)



こやまごうろくさいねんぶつ
小山郷六齋念仏

団体名 小山郷六齋念仏保存会
実施日 8月18・22日ほか
場所 御霊神社 上善寺(京都市北区)



せんぼんろくさいねんぶつ
千本六齋念仏

団体名 千本六齋会
実施日 8月11日
場所 引接寺(千本えんま堂)(京都市上京区)



みぶろくさいねんぶつ
壬生六齋念仏

団体名 壬生六齋念仏講中
実施日 8月9日
場所 壬生寺(京都市中京区)



さかのろくさいねんぶつ
嵯峨野六斎念仏

団体名 嵯峨野六斎念仏保存会
実施日 8月23日
場所 阿弥陀寺(京都市右京区)



さんいんろくさいねんぶつ
西院六斎念仏

団体名 西院六斎念仏保存会
実施日 8月23日
場所 高山寺(京都市右京区)



かつらろくさいねんぶつ
桂六斎念仏

団体名 桂六斎念仏保存会
実施日 8月22日
場所 桂地藏寺(京都市西京区)



かみとぼろくさい
上鳥羽六斎

団体名 上鳥羽橋上鉦講中
実施日 8月22日
場所 浄禅寺(京都市南区)



にしかたでらろくさいねんぶつ
西方寺六斎念仏

団体名 西方寺六斎念仏保存会
実施日 8月16日
場所 西方寺(京都市北区)



やすらい^{ほな}花

平安時代に起源をもつと伝えられる“やすらい花”は、桜の花の散る頃、流行する疫病を退散させるため、風流の扮装をして鉦、太鼓をたたき、踊りながら今宮神社へ参拝し、無病息災を祈願したのがはじまりといわれる。

花が主役の祭礼で、花の疫神を鎮め、この年の豊作を祈願するもので、花の呪術性に、「風流の拍子もの」の影響が加わったものとされる。

現在、やすらい花は京都洛北の4カ所で傳承されており、とりどりの花で飾った花傘を中心に、赤毛、黒毛をつけた鬼が、鉦や太鼓をたたきながら跳びかい、各神社の氏子地域を練り歩く。ユネスコ無形文化遺産登録

かわかみ
川上やすらい花

団体名 川上やすらい踊保存会
実施日 4月14日
場所 川上大神宮(京都市北区)ほか



いまみや
今宮やすらい花

団体名 今宮やすらい会
実施日 4月14日
場所 今宮神社(京都市北区)ほか



げんぶ
玄武やすらい花

団体名 玄武やすらい踊保存会
実施日 4月14日
場所 玄武神社(京都市北区)ほか



かみがも
上賀茂やすらい花

団体名 上賀茂やすらい踊保存会
実施日 5月15日
場所 賀茂別雷神社(上賀茂神社)(京都市北区)ほか



くたはながさおどり
久多花笠踊

団体名 久多花笠踊保存会
実施日 8月24日
場所 志古淵神社(京都市左京区)

京都市左京区の山間の静かな久多に伝わる風流の灯籠踊。菊、あやめ、朝顔、ダリヤ、ばらなどを和紙や灌木の芯でつくる花づくりや意匠を尽くした行燈の透かしをつくる灯籠づくりが花宿で始まり、この花笠灯籠を手にもった男性たちが、太鼓や鉦の音と伝承されている音頭にあわせて踊りを奉納する。ユネスコ無形文化遺産登録



やしやめんちおどり
八瀬赦免地踊

団体名 八瀬郷土文化保存会
実施日 10月13日
場所 八瀬天満宮社(京都市左京区)

後醍醐天皇の比叡山潜幸に尽力した功により、代々地租所役免除の倫旨を与えられていたが、宝永4年(1707)八瀬村と比叡山との争いの際、秋元但馬守の裁断で救われ、この恩に感謝して、秋元神社を建立し踊りを奉納したのが由来と伝えられる。



まつがさきだいもくおどり
松ヶ崎題目踊

団体名 (公財)松ヶ崎立正会
実施日 8月15・16日
場所 涌泉寺(京都市左京区)

京都五山送り火の一つ“妙法”が点火される松ヶ崎に伝わる踊りで8月15日・16日に行われる。徳治二年(1307)に起源をもち、涌泉寺住職実眼僧都が法華経を教導すると、松ヶ崎の住民が法華の信者となったので、歓喜のあまり踊躍して自ら太鼓を打ち、「南無妙法蓮華経」と唱和したのが始まりとされる。



じょうとうさい ばんしよぎしき きやりおんどう
上棟祭 番匠儀式と木遣音頭

団体名 番匠保存会
実施日 1月2日
場所 大法恩寺(京都市上京区)

奈良時代に起源をもつと伝えられ、番匠と呼ばれた建築の工匠が正月に1年の安全を祈願する儀式で、現在、上京区の大法恩寺(千本釈迦堂)で番匠儀式の年頭の儀式である「新始め」が年中行事として行われている。

